

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	自立した生活を続けるための介護予防・健康づくり支援
-------------	---------------------------

現状と課題

本市の高齢化率は2017年10月末現在で35.6%だが、2025年にはその数値が39.1%と推計される等、高齢者のさらなる増加が見込まれている。

伊達市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査によると、介護や介助が必要になった原因に運動器の機能低下が影響していた。また、過去1年間に転倒した人が33.1%で、転倒に対する不安を感じる人は47.7%となっていた。これらを踏まえ、介護予防の重点として、運動機能の維持・向上を図るための取組みが重要となる。さらに、元気な高齢者の介護予防を支援するだけでなく、要介護認定を受けた高齢者の介護保険サービス卒業の受け皿となるように、効果的な介護予防活動を支援できる体制づくりを推進する必要がある。

第7期における具体的な取組

- 地域ケア会議の実施（充実）
- 介護予防普及啓発・地区介護予防教室事業及び介護予防活動支援事業の実施

目標（事業内容、指標等）

- 地域ケア会議の充実
自立支援型地域ケア会議を立ち上げ、多職種が協働して高齢者の個別課題の解決を図るとともに、ケアマネジメント実践力の向上や地域共通課題の明確化などに取り組む。
- 介護予防普及啓発・地区介護予防教室事業及び介護予防活動支援事業の実施
 - ・地区介護予防教室　開催数　2018年度：3回　2019年度：3回　2020年度：3回
 - ・いきいき百歳体操の普及　出前講座開催数　2018年度：5回　2019年度：5回　2020年度：5回
 - ・介護予防グループ活動支援事業の実施

項目	2018年度	2019年度	2020年度
介護予防グループ数	19	22	25
延べ参加者数	10,000	11,500	13,000

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり　■ 実績評価のみ
- 評価の方法
 - 地域ケア会議の充実
個別ケースの検討結果や会議参加者へのアンケートなどにより1年間の活動を評価する。
 - 介護予防普及啓発・地区介護予防教室事業及び介護予防活動支援事業の実施
 - ・地区介護予防教室の実施回数を計上
 - ・いきいき百歳体操の普及のための出前講座開催回数を計上
 - ・介護予防グループ数及び延べ参加者数を計上

取組と目標に対する自己評価シート

年度	平成 30(2018)年度
実績評価	
実施内容	
<p>○地域ケア会議の充実 自立支援型の会議を立ち上げて会議を10回実施。事例提供者や会議のオブザーバーへのアンケートも実施した。</p> <p>○介護予防普及啓発・地区介護予防教室事業及び介護予防活動支援事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区介護予防教室 開催数：3回（2地区で3クール） ・いきいき百歳体操の普及 出前講座開催数：3回 ・介護予防グループ活動支援 既存グループとの意見交換会開催や個別相談対応。また、上記の地区介護予防教室を経ての新規活動グループ立ち上げを支援した。 <p style="padding-left: 20px;">介護予防グループ数：17 延べ参加者数：11,353人</p>	
自己評価結果	
<p>○地域ケア会議の充実 多職種が参加するケア会議を継続して開催することにより、介護支援専門員の気づきや地域共通課題の発見などにつながった。</p> <p>○介護予防普及啓発・地区介護予防教室事業及び介護予防活動支援事業の実施 参加者が自分の運動機能を把握し、運動機能の維持・向上につながった。また、1地区は教室終了後、今年度中の介護予防活動自主グループの立ち上げにつながった。</p>	
課題と対応策	
<p>○地域ケア会議の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提起された地域課題について、その解決に向けた具体的な取り組みをどう進めていくのかが課題となっている。⇒次年度は、ケア会議で出された課題や意見について、多職種勉強会のテーマに取り上げるほか、在宅医療・介護連携推進協議会などの場でも検討を行っていく。 <p>○介護予防普及啓発・地区介護予防教室事業及び介護予防活動支援事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室終了後の自主グループ化について、組織運営の担い手を確保・育成することが課題。⇒次年度以降、各種研修や出前講座などを開催しながら組織運営の担い手を発掘、育てる取り組みを進める。 	